

# 地球資源を見つけ、磨き、広げる戦略とは

東北大学 大滝 精一

## 1. 農商工連携プロデューサー育成塾を始めて

- ✓ 1次産業の資源を起点とした地域の6次産業化(1次×2次×3次)
- ✓ 隠れた資源を見つける大切さ(越後妻有トリエンナーレ、村上の町屋再生プロジェクト)
- ✓ 資源を価値に変える仕組み・仕掛け(=事業の仕組み)(いろいろ)
- ✓ 見つけ、磨き、広げる運動の継続
- ✓ 住民の参加とパワーこそ最大の資源
- ✓ プロデューサーの役割(大場組)

## 2. 地域の隠れた未利用資源を見つける - 資源は発見・創造されるもの

- ✓ いまあるものを見つめ直す(あ・ら・伊達な道の駅)
- ✓ 若者の眼で見る(鹿島台商業の地域郷工学、宮古水産高の商品開発)
- ✓ 市民の眼で見る(片平たてもの応援団)
- ✓ 専門家の知恵を借りる(バイオメティクス=自然に学ぶものづくり)
- ✓ 住民が地域の資源を調査研究する(まちづくりシンクタンク、地元学)
- ✓ 住民(ヒト)にスポットライトを当てる(生活名人、まちの語り部、現代の名工)
- ✓ プロデューサーを招く(山形工房、UD21・にいがた)

## 3. 地域資源を磨く - 資源を価値に転換するためには

- ✓ 点在する資源をつなぐ(竹を編むおばあさん+ガラス製品の組合せ)
- ✓ 中高年の女性の活力を生かす(やくらい土産センター)
- ✓ 事業の仕組み(ビジネス・モデル)を徹底的に考える(セブンイレブンに学ぶいろいろ)
- ✓ 仮説・実験・検証のサイクルをまわす(「考える」住民を一人でも増やす)
- ✓ やったことを評価する、反省する、達成感を共有する(やりっぱなしにしない)
- ✓ 消費者や顧客の声が背中を押す
- ✓ 顧客のソリューション(問題解決)を支援する(野菜の食べ方を教える)
- ✓ 使い勝手のよいICT(情報通信技術)の利用を進める(ネット販売)
- ✓ 資源と商品が本当に差別化されているのかをいつもチェックする
- ✓ わざわざここに足を運んでもらうためには
- ✓ 周辺市町村の資源ともリンクする(道の駅・産直施設のネットワーク化)

## 4. 地域資源を広げる - 資源の好循環をつくる

- ✓ 地域に資源循環のサイクルをつくる
- ✓ エコリビング・エコハウジング(宮城版住宅づくり、熊本県小国町、岩手県住田町)

- ✓ 地域を起点とするサプライチェーン（マクタアメニティ）
- ✓ おからを飼料に変える（平川食品）
- ✓ ゼロエミッションの流れの設計による付加価値の向上（勝沼ワイン）
- ✓ 地域の歴史・文化を起点とした他地域とのネットワーク
- ✓ 日本の一村一品運動を学ぶタイの留学生 - サイクルは海外にも拡大
- ✓ 20世紀の忘れ物 - 資源の好循環の仕組みは歴史から学ぶ（一ノ蔵）
- ✓ 好循環をつくるには住民の参加と自信が不可欠（「観光」の意味、「富県共創戦略」のさらなる推進）（身近な参加機会の工夫）

## 5 . 地域資源を生かすプロデューサーの役割

- ✓ 多様な地域資源へのアクセスと試行錯誤を通じた協働関係づくり
- ✓ 無関係に見える2つ（以上）の資源を結びつける「連想思考」
- ✓ 「なぜ」という問いを繰り返す
- ✓ 現場の細部を観察する、地域（の住民）から学ぶ
- ✓ 未知の場所を訪ねる、新しい実験をする（小さく、すばやく、低コストで）
- ✓ 広いネットワークをもつ
- ✓ 地域力を高めるプラットフォーム（横断的な対話の場）づくり（東鳴子ゆめ会議）
- ✓ プロデューサーの仕事は、(1)対話の場を設定し、(2)適役を配置し、(3)物語やシナリオをつくり、(4)実行すること
- ✓ 宮城にプロデューサーを1人でも増やしていくことが私たち大学の使命